

米ハワイ州空軍基地における MV22 オスプレイ 墜落事故等に対する緊急アピール

去る5月18日、米ハワイ州オアフ島のペローズ空軍基地で、米海兵隊の垂直離着陸輸送機 MV22 オスプレイが墜落・炎上事故を起こした。乗員22名のうち1人が死亡、残り21人全員が病院に搬送される大惨事である。

事故機は、普天間飛行場所属の24機のオスプレイと同型機だ。今回の事故は通常訓練中に起きており、いつ県民の頭上に墜落してもおかしくないことを改めて露呈した。強い恐怖心を覚えると同時に、湧き上がる怒りを禁じえない。

事故報道を受けた翁長雄志沖縄県知事は、同日の臨時記者会見で「憤りを一番に感じる」とし、原因が究明されるまでの県内における飛行停止を要求した。私たち5名も翁長知事と同様の飛行停止を求めるものである。

ところが、「第一には米側が当事者であり、米側が判断すべきだ」（中谷元防衛大臣）「オスプレイは安全である」（菅義偉官房長官）と強調するなど、政府として米側に飛行停止を求める考えは皆無だ。

物言えぬ日本政府の対応をあざ笑うかのように本日午後、県内米軍演習場上空で同型機とみられるオスプレイの飛行が確認されている。屈辱の極みだ。余りの対米従属姿勢に呆れるばかりである。

現在、事故原因を調査中のようだが、墜落時の映像を見た専門家らはボルテックス・リング状態（VRS）やオートローテーション（自動回転）機能の欠如による制御不能の可能性を指摘している。いずれも、オスプレイ特有の「欠陥」機能で、構造的に改善不能とされてきた点だ。

米軍のオスプレイは、過去3年だけで少なくとも3件の墜落事故を起こしている。4件目の今回も、起こるべくして起こった事故である。2012年10月の普天間飛行場へのオスプレイ強行配備から2年半、これまで県内で同種の事故が起きなかったことは「奇跡」としか言いようがない。

去る5月12日に横田基地配備が発表された空軍仕様 CV22 オスプレイの県内飛来も確実だ。特殊作戦用の CV22 は夜間飛行訓練や低空飛行訓練など、より過酷な環境で県民の頭上を飛び交うことになる。また、陸上自衛隊がオスプレイを保有すれば、「離島防衛」強化の名の下に県内訓練が大々的に展開されるのは間違いない。断じて容認できない。

これ以上、県民を危険に晒すわけにはいかない。私たち5名の沖縄選出野党国会議員は普天間飛行場所属24機の MV22 オスプレイの即時撤去、県外・海外からのオスプレイの一切の飛来禁止を強く求めるものである。日本政府はオスプレイの「安全宣言」を今すぐ撤回せよ！

2015年5月19日 沖縄選出国会議員

衆議院議員 照屋 寛徳

衆議院議員 赤嶺 政賢

衆議院議員 玉城デニー

衆議院議員 仲里 利信

参議院議員 糸数 慶子